



しいの実 たんぽぽみず クラスだより

2025.10.31
円町まぶね隣保団

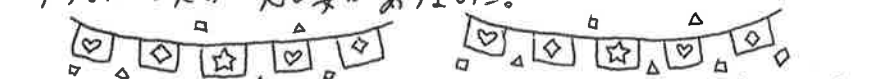


10月も日中はまだ暑さの残る日が続いたかと思えば、月の後半には急に肌寒い日が増えてきました。急な気温の変化に身体もびっくりしてしまいますね。よく寝て、しっかり食べて、たくさん遊んで病気に負けない身体づくりをしていきましょう。
子どもたちは散歩先でどんぐりを見つけたり、きれいに色づいた葉っぱを手に取ったりと秋の自然に興味津々です。今月は身近な自然に触れる楽しさをより感じられぬ月にしたいと思っています。



しいの実

10月は幼児クラスの運動会がありました。しいの実組の子どもたちも公園に運動会ごっこを見に行きました。静かな礼拝の時間は興味津々な様子でじーっと見ていたし、幼児クラスが順番にリズムで身体を動かすと、知っているリズムは音に合わせて身体をゆらしたり、笑顔で見る姿がありました。



しいの実組も運動あそびを楽しんでいます!
お部屋にもすべり台を設置したり、一本橋やトランポリン、ロデオを使ってサーキットあそびや月か木くぐりなどしました。初めての一本橋は、ゆっくり慎重に進んでいく子どももいれば、少しの段差でも怖さを感じて立ち止まっている子ども、まだ落ちるかもしれないということが分らず笑顔でどんどん進んでいく子どもと様子がさまざまでした。すりばいや四つばいの子どもたちも自分の興味がある所へ動いて、すべり台を余す所なく登り、トランポリンのふあふあした感覚を楽しむ姿がありました。日常の中でも階段登りや椅子に自分で座するということをしています。身体の使い方を知り、筋力をつけることで、すりばい → 四つばい → 高ばい → つかま子立ち → 床からの立ち上がり → 歩行と発達していきます。
月齢や個々の成長により、発達はさまざまですが、運動あそびや日常の生活を通して子どもたちの身体作りを大切にしていきたいと思っています。



おこころしずかに...
給食やおやつの前にみんなで「いただきます」のお祈りをします。保育者が「いいですか?」と声をかけると、手をくんでお祈りの準備をする子どもたち。「神様 いただきます アーメン」とお祈りすると「あ〜」や「〜めん!」真似、こ〜言う子どももいます。そして、しいの実組は先に食べていて、後から隣のたんぽぽ組で「いいですか?」の声が聞こえてくると、食べているのを止めて手をくむ子どもたち。たんぽぽ組のお祈りも一緒にやっていた可愛い場面にはほろこします。毎日のくり返しの中で、声を聞き、心を静かにして感謝の気持ちをお祈りする、ということが内容の理解はまだ難しいですが、自然と子どもたちに身につけていることがすごいな〜とうれしく思いました。

たんぽぽぐみ

外に出ると、もう肌寒い秋の季節がやってきましたね。今月は運動会という大きな行事が終わり、たんぽぽぐみの子どもたちは参加しませんでした。運動会ごっこをしている様子を見に行き、幼児クラスの子どものかっこいい姿をたくさん見ることが出来ました。大きなクラスの子どものようにいっぱい身体を動かし、元気いっぱいです。散歩カーを使って行くこともありますが、友だちと手を繋いで歩くことにも慣れてきたので、次は園の近くをみんなで手を繋いで歩くということを目指していこうと思います。季節の変わり目、いつも行く場所でも草木の色が変わっていたり、いつもと違う変化が見つけられるといいなと思います。



室内あそびでは、部屋にあったすべり台が木になり、上に乗ったり、中に入ったりして遊んでいます。上に乗る時に自分の足を木にかけて、腕にも力を入れないといけなないので、まだ自分の力だけで登り切ることが出来るのは少ないですが、やりたい気持ちを出し「〇〇もしたい!」と言っています。上に乗ると、落ちないようにしっかり棒をつかんで前に進んでいきますが、「こわい!」と言って降りてしまうこともまだあります。日常の遊びの中で、くり返し遊ぶことで出来るようになり、徐々に体の使い方が分かり、思うように動けるようになってきます。保育者の見守りの中で安全に楽しくあそびたいと思います。

<はーい>

朝の挨拶の時や絵本を読んでいる時にも名前を呼ぶと、みんな元気に「はい!」と返事をしています。「おべんとうバス」という絵本があり、食材が順番にお弁当のバスに乗りこんでいくという内容ですが、乗る時に「はーい!」と返事をするセリフがあるのですが、みんなもつられて「はーい!」と返事をするようになりました。その表情がとても楽しそうで「はーい!」と言う時にはみんなの心が一つになったような一体感を感じているような気がします。少しずつみんなで何かをすることが楽しくなってきたようです。

<おねがい>

衣服や持ち物に名前が書かれていないものもありますので、再度確認していただき、名前を書いてください。

みずぐみ

朝、牛乳を飲む前に「今日は何をするのか?」を話しています。この日の活動は園庭あそび。牛乳を飲んだ後はトイレに行き、帽子をかぶることを伝えました。けなと友だちとのあそびが楽しくて止まりません。そこで一人ひとりに「牛乳を飲んだ後はどうするんだ?」と聞いてみると「園庭!」「お絵かきする!」「え?」と様々な答えが返ってきました。思わず笑ってしまうにぎやかな朝の一コマでした。
毎日の活動は身についてきていますが、まだまだ楽しいハミングも...!! たふと最後には園庭に行きはすか?友だちと手を繋ぎ始めて散歩の準備をする姿もありました。
わんはぐでにぎやかな子どもたちの姿についつい笑ってしまう毎日です。こうした日々のやりとりを大切に、少しずつ友だちや保育者の話にも耳を傾けられるようになっていけたらいいなと思います。

<身近な自然から芽生える思いやり>

「葉っぱおばけ(お)を作りたい」と葉っぱ探しをしていた時のこと... 木に登っていたアリを見つけに子どもがいて、じーと目で追っていました。保育者もアリの動きに夢中になると「葉っぱさんかわいそう」とつぶやいた子どもがいました。どうしてか聞いて「アリが登っているから」とのこと。2歳児にとっては「自分中心の世界」が強い時期ですが、少しずつ他者の立場や気持ちを想像する力が芽生えているのを感じました。
身近な自然の中、子どもたちは観察し、考え、言葉で表現し、思いやりや想像力を育んでいます。

